



使徒継承

アンティオキアにおける聖ペテロから、シリア正教会
アンティオキア総主教庁を経て、現在に至る

この継承の系譜に連なる

主教

Garland F. Byers, Jr., J.D., D.D.

諸国民への主教、使徒的委任のもとに



1. 聖ペテロ、使徒、殉教者^{CO}

紀元30年頃キリストに召された。アンティオキアの初代主教
聖書に名が記されている：「汝はペテロなり、我この磐の上に我が教會を建てん」(マタイ伝福音
書16:18)。アンティオキアにて(ガラテヤ人への書2:11)

この使徒継承の系譜は、紀元30年頃の使徒ペテロから今日にまで及び、
2026年現在で1,996年にわたる。

聖ペテロからアンティオキア総主教 Ignatius Peter IV に至る継承は、シリア正教会
が保持するアンティオキア総主教の名簿に従っている。これは、同教会が自らの
使徒継承をアンティオキア初代主教聖ペテロにまでたどるのと同じ名簿である。

主教職への聖別は、以下に名を挙げる諸教会を通じて、一人から次の一人へ
と行われた。

この系譜の主教の中には、聖人としても崇敬されている者がいる。その名の傍らの
印は、生涯の聖性のみにかかわる。それはいかなる聖別の有効性にもかかわらな
い。聖人として崇敬されているか否かにかかわらず、表に挙げたすべての主教は、
継承において等しくその位置を占めている。

聖 聖人：英雄的な聖性の生涯を送り、今は神のもとにある者として教会
が公に崇敬し、その記憶を暦において記念する人。初代教会では、聖

人は信徒とその主教たちの称賛によって認められた。のちには、ローマ・カトリック教会では正式な列聖によって、正教会では列聖（glorification）によって認められるようになった。

福者 福者：ローマ・カトリック教会において、列福された人。列福は聖人としての列聖に先立つ正式な段階である。

C ローマ・カトリック教会により聖人または福者として崇敬されている。

O 正教会により聖人として崇敬されている。

CO ローマ・カトリック教会と正教会の双方で聖人として崇敬されている。

赤 殉教者：信仰のために命をささげた者。

誰が聖人であるかについて、諸教会の見解は常に一致するわけではない。ある教会が、他の教会が崇敬しない人を崇敬することもあり、印はそれぞれの聖人をどの教会が崇敬しているかを示している。

アンティオキア

「弟子たちのキリステアンと稱へらるる事はアンテオケより始れり」（使徒行伝11:26）と記されたアンティオキアの主教座。聖ペテロがローマに赴く前に創設した。聖ペテロの後を継いだ聖エウオディオスから、シリア正教会とギリシャ正教会が共に数える最後の総主教 Severus に至るまでの、アンティオキアの主教および総主教たち。

2. 聖エウオディオス ^{CO}	53
3. 聖イグナティオス ^{CO} 殉教者	68
4. Heron I	100
5. Cornelius	127
6. Heron II	151
7. 聖 Theophilus ^{CO}	169
8. Maximus I	188
9. 聖 Serapion ^{CO}	191
10. 聖 Asclepiades ^{CO}	212
11. Philetus	218

12. Zebinus	232
13. 聖 Babylas ^{CO} 殉教者	240
14. Fabius	253
15. Demetrian	256
16. Amphilochius	263
17. サモサタの Paul	267
18. Domnus I	270
19. Timaeus	273
20. Cyril	277
21. Tyrannion	299
22. Vitalius	308
23. 聖 Philogonius ^{CO}	314
24. Paulinus	324
25. 聖 Eustathius ^{CO}	325
26. Eulalius	332
27. Euphronius	333

28. Flacillus	334
29. Stephen I	341
30. Leontius	345
31. Eudoxius	350
32. 聖 Meletius ^{CO}	354
33. Anianus	357
34. Euzoius	360
35. Dorotheus	370
36. Paulinus II	371
37. Vitalius II	376
38. 聖 Flavian I ^{CO}	384
39. Porphyrius	404
40. Alexander	408
41. Theodotus	418
42. John I	427
43. Domnus II	443
44. Maximus II	450
45. Basil	459
46. Acacius	459
47. Martyrius	461
48. 縮絨工 Peter	465
49. Julian	466
50. John II	475
51. Stephen II	490
52. Stephen III	493
53. Calandion	495
54. John Codonatus	495
55. Palladius	497

56. Flavian II	505
57. Severus	513

シリア正教会総主教庁

518年のSeverusの罷免以降、シリア正教会のアンティオキア総主教たち（同教会が保持する名簿による）から、Ignatius Peter IVに至る。Ignatius Peter IVは1877年、インドの教会のためにコッタヤム主教Paulose Mar Athanasiusを聖別した。

58. テラの Sergius	544
59. 黒の Paul II	564
60. カリニコスの Peter III	581
61. Julian II	591
62. Athanasius I Gammolo	595
63. セドラ祈祷文の John III	631
64. Theodore	649
65. Severus II bar Masqeh	668
66. Athanasius II Baldoyo	684
67. Julian III	687
68. Elias I	709
69. Athanasius III	724
70. Iwannis I	740
71. George I	758
72. Joseph	790
73. ティクリートの Quriaqos	793
74. Dionysius I Telmaharoyo	818
75. John IV	846
76. Ignatius II	878
77. Theodosius Romanus	887
78. Dionysius II	897

79. John V	910	107. Philoxenus I Nemrud	1283
80. Basil I	923	108. Michael II	1292
81. John VI	936	109. Michael III Yeshu	1312
82. Iwannis II	954	110. Basil III Gabriel	1349
83. Dionysius III	958	111. Philoxenus II	1387
84. Abraham I	962	112. Basil IV Simon	1421
85. John VII Sarigta	965	113. Ignatius Behnam Hadloyo	1445
86. Athanasius IV Salhoyo	987	114. Ignatius Khalaf	1456
87. John VIII bar Abdoun	1004	115. Ignatius John XIV	1484
88. Dionysius IV Yahyo	1031	116. Ignatius Noah	1494
89. John IX bar Abdun	1049	117. Ignatius Yeshu I	1509
90. Athanasius V Yahyo	1058	118. Ignatius Jacob I	1512
91. John X bar Shushan	1064	119. Ignatius David I	1519
92. Basil II	1074	120. Ignatius Abdullah I	1521
93. John bar Abdun	1075	121. Ignatius Ni'matallah	1557
94. Dionysius V Lazarus	1077	122. Ignatius David II Shah	1576
95. Iwannis III	1086	123. Ignatius Pilate	1591
96. Dionysius VI	1088	124. Ignatius Hidayat Allah	1598
97. Athanasius VI bar Khamoro	1091	125. Ignatius Simon	1640
98. John XI bar Mawdyono	1130	126. Ignatius Yeshu II	1655
99. Athanasius VII bar Qatra	1139	127. Ignatius Abdulmasih I	1662
100. シリア人 Michael I	1166	128. Ignatius George II	1687
101. Athanasius VIII bar Salibi	1199	129. Ignatius Isaac II	1709
102. John XII	1208	130. Ignatius Shukrallah II	1723
103. Ignatius III David	1222	131. Ignatius George III	1746
104. Dionysius VII Angur	1252	132. Ignatius George IV	1768
105. John XIII bar Ma'dani	1252	133. Ignatius Matthew	1782
106. Ignatius IV Yeshu	1264	134. Ignatius Yunan	1817

135. Ignatius George V	1819
136. Ignatius Elias II	1838
137. Ignatius Jacob II	1847
138. Ignatius Peter IV	1872

インド、セイロンおよびアメリカ合衆国 —

Paulose Mar Athanasius から、各主教はその前に掲げた主教によって聖別された。1892年、Mar Athanasius と Mar Julius I は、パルマラの聖グレゴリオス（Gregorios）と共に、総主教の許しにより、セイロンのコロンボにおいて Joseph René Vilatte を聖別した。

139. Paulose Mar Athanasius	1877
-----------------------------------	------

140. Antonio Francisco Xavier Alvares (Mar Julius I)	1889
141. Joseph René Vilatte (Mar Timotheos)	1892
142. Francis John Edmund Barwell- Walker	1923
143. Emile Rodriguez y Fairfield	1961年頃
144. Nils Bertil Alexander Persson	1986
145. Samuel Guido, Jr.	2004

146.

Garland F. Byers, Jr.

2013

シリア正教会アンティオキア総主教と共有する継承

現在のシリア正教会アンティオキアおよび全東方総主教である総主教 Ignatius Aphrem II とバイヤーズ主教とは、アンティオキアにおける聖ペテロから総主教 Ignatius Peter IV（1872–1894年アンティオキア総主教）に至るまで、同じ使徒継承の系譜を共有している。総主教 Peter IV は、両系譜がそれぞれ由来する主教たちを自らの手で聖別した。総主教 Aphrem II の系譜においては、1872年に、のちの総主教 Ignatius Abded Aloho II である Gregorios Abded Aloho を、バイヤーズ主教の系譜においては、1877年に、コッタヤムの主教 Paulose Mar Athanasius を聖別したのである。



聖職

按手

奉仕

2013年4月20日、Lutheran Orthodox Church, Inc. において主教聖別を受け、その後同団体におい

2008年8月17日、按手により。ペンシルベニア州パーマーのSt. Paul's Lutheran Orthodox Chapelにて。

主教聖別

2013年4月20日、聖餐の執行の中で按手により。St. Paul's Lutheran Orthodox Chapel（この日はペンシルベニア州スラティントンのAmerican Legion Post 16で集会）にて。

主聖別者

主教 Samuel Guido, Jr.

共同聖別者

Bradley A. Varvil 主教

Michael Byus 主教

James Thompson 主教

按手および主教聖別の証書は、主教聖別の写真とともに、[主教について](#)のページに掲載されている。

て Western North Carolina 教区の大主教を務めた。バイヤーズ主教は現在、同団体に所属していない。

名誉神学博士 (honoris causa)、Lutheran Orthodox Church, Inc. より授与、2013年4月20日。



本ページの日本語の聖句は、すべて文語訳聖書（旧約：明治元訳、1887年／新約：大正改訳、1917年、日本聖書協会）から引用しています。いずれもパブリックドメインです。本文：[ウィキソース](#)。聖句は抜粋して引用しており、省略箇所は「.....」で示しています。

聖ペテロ、『ラブラ福音書』（フォリオ13v）の昇天のミニアチュールより。同書は紀元586年にシリアのザグバの聖ヨハネ修道院で完成したシリア語の福音書写本である。フィレンツェ、メディチ家ラウレンツィアーナ図書

館（Biblioteca Medicea Laurenziana、Plut. I, 56）。[Wikimedia Commons](#)経由、パブリックドメイン。原画からトリミング
およびサイズ変更を施した。